

令和3年度 江戸川区立葛西中学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	「豊かな心」 ・自ら進んで学ぼう ・責任を果たそう ・健康な生活を送ろう	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・保護者にとって、子どもをかわせてよかったと思える学校 ・「確かな学力」「豊かな心」「健康な体」をバランスよく備えた生徒 ・人権尊重の精神に富み、自身の職務に専念し、生徒・保護者から信頼される教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p>&lt;成果&gt; 同一の校舎である併設型小中学校の強みを生かした小中連携の教育活動を行うことができた。 経営支援部を設置し、決裁システムを導入したことで、併設型小中学校を円滑にスムーズに運営できた。</p> <p>&lt;課題&gt; 小中を通じたさらに強化したカリキュラムマネジメントによる確かな学力をつけるための授業改善。 不登校や不登校傾向の生徒を減らすため、生徒・保護者の気持ちに寄り添った指導の推進や特別支援教育の理解。</p>		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策		
					取組	成果	成果と課題	評価		コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上	「対話」形式を取り入れた授業の実践 生徒の授業評価の活用	教員アンケートでの振り返りでの実績教員を80%以上にする	A	B	○各教科、ICTを活用し、よりわかりやすく授業を進めた。指導教諭の模範授業から学び、実践している。 ●教員アンケート、生徒授業評価は計画的に実施できなかった。 ●教員アンケートを1学期に実施。 ○朝読書を毎日実施している。 ○計画的に取り組んでいる。Ipadを活用し、情報の収集・整理・分析を行い、自分の考えを論理的にまとめている。 ●学校図書館を使った授業は実施できなかった。 ・ねらいや目的をもう一度見直す。	B	・生徒の授業内容の理解度を数値化した結果の報告を望む。 ・ICT活用の成果が出ている。 ・年明けより欠席者が増加するも授業を継続していただいたが、欠席者に対する支援がなかったように思えた。	・「学習進路部会」で、1学期中にアンケートと評価項目内容を決め、2月に実施し、次年度の教育活動に活かす。 ・オンライン授業等については、実施に向けた計画を進めていく。	
	読書科の更なる充実	学校図書館の整備・活用の推進や探究的な学習の充実 ・読書科ノートの活用など、探究活動、探究的な学びの充実 ・学校図書館を使った授業の充実	朝読書の推進 ポップ作りや紹介文の作成など成果物を展示・掲示する 学校図書館を利用した授業を実践する	月間で読書ページを100ページ以上にする 学芸発表会(展示)で全員展示する 学校図書館での授業を1~2教科で実践する	A	B	○朝読書を実施している。 ○計画的に取り組んでいる。Ipadを活用し、情報の収集・整理・分析を行い、自分の考えを論理的にまとめている。 ●学校図書館を使った授業は実施できなかった。 ・ねらいや目的をもう一度見直す。	A	・iPadの活用が良い。 ・朝読書をする時間が継続して確保されていた。 ・図書館にも多くの本が並んでいて、本と触れあう環境が整っている。	・4年度は、司書教諭の活用も計画に入れ、学校図書館を有効に活用していく。 ・小学校の図書館担当と円滑な運営ができるよう、調整をする。	
	体力の向上	体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	保健体育の授業開始の5分間で補助運動を実施する	体力テストの結果を昨年度と比較して上回るようにする。	A	A	○体育の授業開始時間の5分で補助運動を実施している。体力テストの結果の総合得点は、全国・都平均それぞれを上回っている。	A	・コロナ禍で、特筆すべき成果である。 ・校庭や屋内運動場を活用し、継続して体を動かす授業を行ってほしい。体力テストの結果の総合点が全国・都の平均を上回っていることがその成果だと思う。	・今年度の取組を継続させる。	
	オリパラ教育の推進	「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組やオリパラコーナーの充実	講演会の実施 オリパラコーナーの充実	オリパラコーナーを設置する オリパラノートを点検する		B	B	○各教科でオリンピック・パラリンピックに関連付けた授業を計画に基づいて実施した。特別活動でオリパラに関連した成果物を作成した。 ●講演会は実施できなかった。	B	・コロナ禍の中における活動実施に対して、ありがたく思う。 ・今年度は夏季及び冬季オリンピックが開催されたので、もう少し生徒が興味をもつ取組があっても良かった。 ・観戦が中止になったことは残念である。	・レガシーの一つである「ボランティアマインド」の醸成を目指し、コロナ禍で実施できなかった、従来のボランティア活動を実施する。
	外国語教育の推進	授業力の向上とALTの効果的な活用	究極の小中連携の実施	合同教科部会を年2回実施 生徒アンケートでの肯定的評価80%以上にする	A	A	○ALTの活用および少人数授業による効果的な英語教育を実践できている。小中連携の意識も徐々に定着している。 ○小学校教諭とともに作成した指導案による授業を2回実施した。授業の進め方の共通理解を協働としての意識を高めた。 ・生徒アンケートを2月に実施。	A	・学校での取り組みでは物足りないという声もあるが、学校ならではの取組や活動に期待する。 ・ALTの活用で、外国語教育が成果をあげている。小中の連携・協働の成果でもある。 ・少人数授業は効果的である。 ・教科書だけでなく、プリントを活用するなど、リーディングとライティングの両方を向上させる工夫がされている。	・小学校教員と連携し、小学校で学んだ内容を確認し、外国語の授業にスムーズに移行できるようにする。 ・小学校の外国語の授業において指導案作り、授業参観でのアドバイス等で連携を図る。	
	健全育成に向けた取組の強化	いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	生活指導部会を毎週実施し、情報共有を徹底し、早期対応を図る	生徒アンケートの否定的評価を4%以下にする 2学期以降の新たな不登校出現を0にする	A	B	○生活指導部を中心とした生徒に関する情報共有が日常的にできている。素早い対応を教職員全員が心掛けている。 ●不登校生徒1学期末は24名、2学期末は29名と増えてしまった。 ・生徒アンケートを2月に実施。	A	・不登校は難しい問題である。不登校の生徒が小学校から続いているのが心配である。中学校になって不登校となってしまった生徒への早期対応に力を尽くしてほしい。 ・風紀が乱れた生徒等が見られないのは、生活指導部を含めた先生方の指導の賜物だと思う。 ・不登校の要因は学校だけの問題ではない。できることを継続して取り組んでほしい。	・本校で独自に作成している不登校分析シートを活用し、不登校の予兆をキャッチし、未然防止の徹底を図る。	
特別支援教育の充実	特別支援教育の推進 ・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	特別支援教育委員会の定期的な実施 巡回指導員、支援員、心理士との円滑な連携	教員アンケートや保護者アンケートの肯定的評価が90%以上にする。	B	B	○特別支援委員会を毎週1回開催できている。保護者や生徒に関する情報共有ができています。 ●保護者アンケートから適切な相談体制や指導をしているに肯定的な意見が85%であった。	B	・エンカレッジルームを活用し、相談・指導ができる体制・環境が構築されている。 ・保護者からの肯定的な意見が多く寄せられていることがその結果である。	・特別支援教育に関する研修を行う。また、保護者対応についての研修会や、ベテラン教員の対応の仕方を学ぶ機会を設けて、対応力を身に付ける。		
教員の資質向上	教員研修の充実	ICTアシスタントによる校内研修の実施 ICTを活用した教員の授業力の向上	教室でのタブレットPC、プロジェクトの活用	ICT研修を年3回実施しICT活用実績教員を80%以上にする。	A	B	○ICTの活用や情報教育に対する校内研修を計画通り実施できた。 ○活用頻度が増え全体として活用状況は良好である。 ・教員アンケートを2月に実施。	B	・ICTの活用が増えているのは心強い。 ・タブレットを活用した取り組みは行われていた。欠席者に対する支援の活用を望む。	・令和4年度は、校内のICT機器の充実が予定されているので、更に活用を促進する。	
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	小中教員によるそれぞれの児童・生徒への授業参観と実践	お互いの授業を見合う授業参観を年3回実施 児童生徒の交流を年3回	A	A	○中学校英語科教員が小学校の授業にT2として入った授業が実施できた。中学校指導教諭の授業の授業に小学校の教員が参加し交流ができた。 ●日常的な授業参観、情報交換を頻繁に行うことができなかった。	A	・さらに進んだ小中連携教育を期待している。 ・小学校と中学校の教員同士の交流や情報交換が図られていることは、施設併設校であるからこそ取組である。	・小中連携教育参観週間に、接続学年の6年生を中心として、全員が参観をする。	
	「あじみこしわ」の推進	生徒が自主的に「挨拶、時間厳守、身だしなみ、言葉遣い、姿勢、忘れ物」に留意して生活	生徒会による自主的な実践活動の実施 委員会による活動の実施	「自分によいところがある」を80%以上にする	A	A	○生徒会役員が朝礼や掲示物、生徒会だより、さらに朝の挨拶運動を通して「あじみこしわ」を推進した。 ・生徒アンケートを2月に実施。	A	・葛西中ならではの「あじみこしわ」の推進は素晴らしい取り組みだと思う。 ・生徒会を中心として、積極的な取組が行われている。	・生徒の自主的な活動を今後も進める。	